

早稲田大学 第一文学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	一部難しい問題があるものの、全体的には非常に解きやすい問題になっていた。VIの美術史の問題はこの学部ならではの出題だが、それ以外の問題には他学部と共通する傾向が見られるので、正誤問題は他学部の過去問などで練習しておく必要がある。しかもただ解くだけでなく、正誤問題の作られ方まで意識するようになると、他の受験生に大きな差をつけることができる。夏期・冬期の講習ではそうした「解き方」にこだわった講座があるので受講してみしてほしい。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の文字資料	「稻荷山古墳出鉄剣銘」などの古代の文字史料をテーマとする出題は、早稲田では定番だが、今回は3を除いて非常に易しい問題であった。3はウ・エの2択にまでは絞り込めるだろう。	やや易
II	『古語拾遺』に見える文字社会	問題文をよく読んで理解したうえで解いていく問題。そこにややとまどったかもしれない。3は難問と言ってもかまわないが、あるテクニックを使うと細かい知識がなくても正解が得られる。その紹介は授業で。	標準
III	古代から近世の浄土信仰	5を除いては拍子抜けするほど易しい問題である。5の「興福寺奏状」は87年や93年の早稲田大でも出されていたものなので、貞慶の起草によることは十分備えておきたかった。予備校では講習の仏教史の授業で扱っている。ただし今回は「〇〇上人」という出題であったため、貞慶の別名「解脱上人」がベストな解答となり、突然難易度が高まってしまった。	やや易
IV	江戸時代の農業	早稲田定番の近世農業からの出題。正誤問題に悩まされた受験生が多いだろうが、それは用語をただ覚えるだけで、内容理解を深めていなかったせいである。この程度の正誤文は十分判別できるだけの学習をしておくべきであった。	標準
V	日露戦後の外交と内政	「帷幄上奏」の漢字は正しく書けただろうか。早稲田では93年に選択形式で出題されている。正誤問題では1は正解	標準

VI	古代から近世の美術	<p>可能だが、6が難しい。農村負債整理組合法が1930年代の農業恐慌下で出されたことを知っていないと解けない。しかし、こうした問題も正誤問題に精通することで細かい知識がなくても正解できてしまう人は存在する。早稲田予備校西船橋校で実際にあった話である。</p> <p>どうやら第一文学部では最後に美術史分野から出題するのが定番らしい。しかも写真問題を入れて。「唐獅子図屏風」は大変有名な作品なので簡単だったが、漢字が書けたかどうか。ちなみに「屏」の字はこのようなパソコンで使われている略字ではなく、正しく書いた方が無難である。</p>	易
----	-----------	---	---